

## 年間第12主日 年B

いったい、このかたはどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか？

今日の福音書に登場する弟子たちは、ガリラヤ海にいたとき、激しい嵐が起りましたが、イエスは彼らと一緒にいて、熟睡していました。彼らはとても怖かったのです。そこで、彼らはイエスを起こして、荒れ狂う嵐を止める助けを求めたのです。

恐怖は大きな危機の時だけでなく、普通の危機の時にも当てはまります。なぜなら、恐怖は私たちの生活の中で大きな役割を果たしているからです。例えば、毎日の食事や生活に必要なものを買うお金がないときや、暗闇で道に迷ったときなどです。

私たちが恐れているのは、イエス様への信仰が足りないからではないでしょうか？

クリスチャンの信仰は、私たちの精神（信じること）、意志（行うこと）、心（信頼すること）のすべての部分に触れています。これらは、キリストに従う者としての私たちの生活の中で相互に作用する信仰の3つの次元です。

信仰の第一の次元は、信じることです。キリスト教の信仰は、自分の両親や親愛なる人についての深い知識のようなものです。この信仰は、イエス・キリストを「私の主、私の神」（ヨハネの福音書20:28）として個人的に知ることです。

信仰の第二の側面は、「行うこと」です。信じることに加えて、信仰は行うことでもあります。聖ヤコブが書いているように、「私の兄弟たちよ、信仰を实践せずに信仰を公言することに何の意味があるのでしょうか」（ジャス2:14）。と書いています。キリストご自身も教えておられます。

「主よ、主よ」と叫ぶ者は誰も神の国に入ることができず、ただ天上のわたしの父の御心を行う者だけが神の国に入ることができる」（マタイ7:21）。

信仰の第三の次元は「信頼」です。信じること、行うことに加えて、信仰は神の手に自分を委ねることでもあります。

これらの**3**つの次元は、クリスチャンとしての私たちの生活の一部であるため、互いに切り離して考えるべきではありません。私たちは彼に対して強い信仰を持っているのでしょうか？それはどの程度のものでしょうか？**100%**なのか、それとも半々なのか。